

ナブテスコ 株式会社

証券コード: 6268

2015年3月期第2四半期 決算説明会

2014年11月6日

Nabtesco Corporation

当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、
施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

第1部：2015/3期第2四半期決算説明

第2部：自動ドア事業説明

- I. 第2四半期累計連結業績概況
- II. 連結業績見通し
- III. セグメント別業績概況・見通し
- IV. 地域別売上高
- V. **B/S**概況
- VI. 設備投資額・研究開発費・減価償却費
- VII. 連結キャッシュ・フロー
- VIII. トピックス

第2四半期累計連結業績概況 (前年同期比) **Nabtesco**

上期実績は、前年同期比増収増益
7/31計画と比べ、売上高は未達ながら各利益では計画を上回る

(4~9月累計期間)

(単位:百万円)	2014/3上期 実績	2015/3 上期 (7/31計画)	2015/3上期 実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	93,458	107,000	105,598	12,140	13.0%
営業利益	7,938	9,800	11,612	3,673	46.3%
営業外損益	1,734	-	2,230	495	28.6%
経常利益	9,673	11,600	13,842	4,169	43.1%
特別損益	-896	-	-28	867	-
税引前利益	8,776	-	13,814	5,037	57.4%
当期純利益	5,037	6,400	8,951	3,913	77.7%
一株当たり 当期純利益	39.52円	50.58円	70.74円	31.22円	

Remark: 売上高
(増収要因)

- 堅調な産業用ロボット需要
- 中国高速鉄道需要の伸長
- 造船市況の回復
(減収要因)
- 中国建機需要低迷

Remark: 特別損益
(損失減の主な内容)

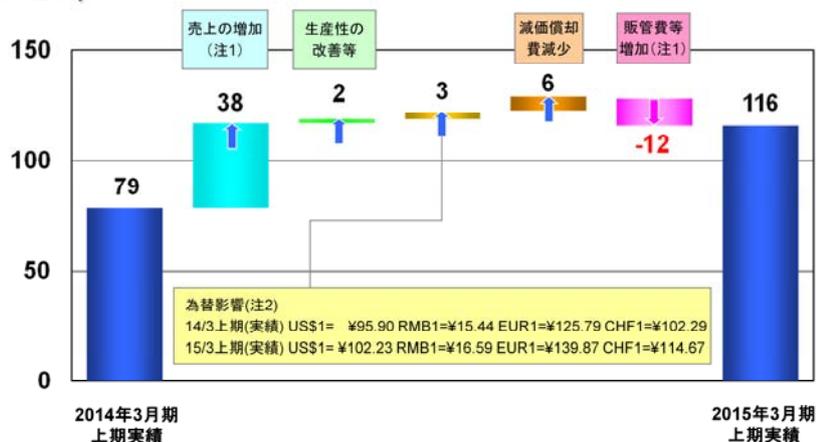
- 退職給付制度改訂損の
未発生 △8億円

一株当たり 中間配当金	18円	20円	20円	2円
----------------	-----	-----	-----	----

注: 当社海外子会社に関しては1~12月決算であり、3ヶ月分の期ずれが生じております。

上期連結損益実績 (営業利益変動要因分析) **Nabtesco**

(単位:億円)



注1: 売上および販管費等増減による営業利益の変化については為替影響を除き計算。

注2: 為替感応度: 米国ドル45百万円、人民元29百万円、ユーロ軽微、スイスフラン軽微
(為替が1円変動したときの営業利益に対する影響)

5

- 将来の成長に向けて販管費等を増やしており、前年同期比12億円の減益要因となっている。
- 上期実績では計画に比べ、約5億円の販管費等が未消化となっており、その分が下期にずれ込む見込み。

連結業績見通し

Nabtesco

下期見通しは7/31計画に対して、セグメント別に計画達成度の差異があるが、
 全社としては通期見通しに向けて計画通りの推移を見込む

(単位:百万円)	2014/3			2015/3				
	上期 実績	下期 実績	通期 実績	上期 7/31計画	上期 実績(A)	下期 7/31計画	差引値 (B-A)	通期 見通し(B)
売上高 (前年同期比)	93,458 (+3.1%)	108,834 (+22.5%)	202,292 (+12.7%)	107,000 (+14.5%)	105,598 (+13.0%)	109,000 (+0.2%)	110,401 (+1.4%)	216,000 (+6.8%)
営業利益 (前年同期比)	7,938 (+4.5%)	12,154 (+63.8%)	20,092 (+33.8%)	9,800 (+23.4%)	11,612 (+46.3%)	11,800 (-2.9%)	9,987 (-17.8%)	21,600 (+7.5%)
営業利益率	8.5%	11.2%	9.9%	9.2%	11.0%	10.8%	9.0%	10.0%
経常利益 (前年同期比)	9,673 (+14.2%)	14,554 (+54.5%)	24,227 (+35.4%)	11,600 (+19.9%)	13,842 (+43.1%)	12,800 (-12.1%)	10,557 (-27.5%)	24,400 (+0.7%)
当期純利益 (前年同期比)	5,037 (-22.7%)	9,940 (+47.1%)	14,978 (+12.9%)	6,400 (+27.0%)	8,951 (+77.7%)	9,100 (-8.5%)	6,548 (-34.1%)	15,500 (+3.5%)
ROA			6.9%					6.7%
ROE			12.2%					11.7%
	為替15/3下期(前提) US\$ 1=¥100 RMB1=¥16.40 EUR1=¥130.00 CHF1=¥107.00							
一株当たり 配当金	18円	20円	38円	20円(予)	20円	20円(予)	20円(予)	40円(予)
配当性向			32.2%					32.7%(予)

6

- ・上期に比べ、下期は増収減益の見込み。営業利益率も2ポイント低下(上期:11.0% → 下期:9.0%)。
- ・しかし、上期より下期にずれ込む販管費等5億円を考慮すると、下期と上期の営業利益率の実質的な差は1ポイントに留まる。
- ・詳細は各セグメントの説明を参照。

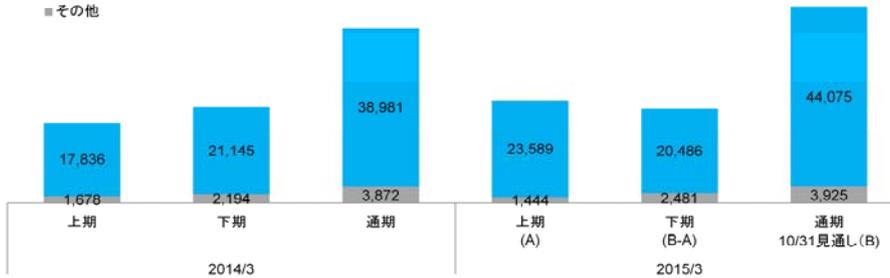
業績実績及び見通し

(単位:百万円)	2014/3 実績			2015/3				
	上期	下期	通期	上期		下期	通期	
				7/31 計画	実績 (A)	差引値 (B-A)	7/31 計画	10/31 見通し(B)
売上高 (前年同期比)	19,513 (-3.9%)	23,339 (+9.8%)	42,853 (+3.1%)	25,000 (+28.1%)	25,033 (+28.3%)	22,966 (-1.6%)	48,000 (+12.0%)	48,000 (+12.0%)
営業利益 (前年同期比)	2,665 (+24.1%)	3,694 (+15.2%)	6,359 (+18.8%)	3,600 (+35.1%)	3,976 (+49.2%)	2,823 (-23.6%)	7,300 (+14.8%)	6,800 (+6.9%)
営業利益率	13.7%	15.8%	14.8%	14.4%	15.9%	12.3%	15.2%	14.2%

■ 精密減速機
■ その他

売上高推移

(百万円)



7

・期首では、精密減速機事業の売上高成長率を前期比+6%と見込んでいたが、2014年9月にIFR (International Federation of Robotics) が新たに発表した世界の産業用ロボット市場成長予想:年率12%をもとに、精密減速機事業の通期見通しを計画した。

・上記の市場前提で固定化された精密減速機事業の通期見通しをベースとすると、下期の差引値は上期に比べ約30億円減収の見込み。営業利益については、減収による減益を見込む。

・今後も産業用ロボット市場は成長すると確信するが、顧客(ロボットメーカー)の要求が短納期化している。顧客からのフォーキャストの期間も3カ月程度と以前に比べ短くなっており、事業環境の先行きを見通しづらくなっている。

・その他事業は、セグメント営業利益に貢献していない。

Notes:

- 精密減速機:
 - ・ 上期 (前年同期比増収): 産業用ロボットメーカー向け需要伸長
 - ・ 下期 (上期比減収): 産業用ロボット向けは、上期の自動車産業での大型設備投資案件一巡
 - ・ 通期 (前期比増収): IFR^(*)のロボット販売台数見直し変更(CAGR6%→12%)をもとに計画
- 新エネルギー事業:
 - ・ 通期 (前期比減収): 風力発電機用駆動装置の一部調達品不具合の影響
- 営業利益(全体):
 - ・ 上期 (前年同期比増益): 精密減速機の売上増による増益
 - ・ 下期 (上期比減益): 精密減速機での上期比減収に伴う減益、成長投資によるコスト増、新エネルギー機器での調達品不具合等の影響
 - ・ 通期 (前期比増益): 下期は上期比減益を計画するも、堅調な上期実績により増益

*IFR=International Federation of Robotics

主要製品と顧客 (敬称略)

● 精密減速機

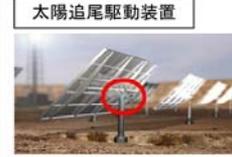
産業用ロボット: ファナック、安川電機、KUKA Robotер (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

工作機械: ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

● 新エネルギー事業

太陽熱発電: Cobra Thermosolar Plant (スペイン)

風力発電: 三菱重工、日立製作所、他



業績実績及び見通し

(単位:百万円)	2014/3 実績			2015/3				
	上期	下期	通期	上期		下期	通期	
				7/31 計画	実績 (A)	差引値 (B-A)	7/31 計画	10/31 見通し(B)
売上高 (前年同期比)	23,960 (+6.2%)	28,681 (+32.2%)	52,641 (+18.9%)	30,000 (+25.2%)	29,769 (+24.2%)	30,930 (+7.8%)	59,200 (+12.5%)	60,700 (+15.3%)
営業利益 (前年同期比)	2,581 (+5.3%)	3,762 (+113.6%)	6,344 (+50.5%)	4,700 (+82.1%)	5,875 (+127.6%)	4,324 (+14.9%)	8,800 (+38.7%)	10,200 (+60.8%)
営業利益率	10.8%	13.1%	12.1%	15.7%	19.7%	14.0%	14.9%	16.8%



- ・商用車用機器事業は通期で前期比横ばいの見込み。東南アジア向けは減収見込みの一方、国内におけるトラック需要が堅調。
- ・鉄道車両用機器事業と船用機器事業は前期比で大幅な増収増益と見込んでいます。

輸送用機器事業

Nabtesco

Notes:

- 鉄道車両用機器：
 - ・上、通期 (前年同期比増収): 中国高速鉄道向け売上の増加、MRO^(*)売上の増加
 - ・下期 (上期比横ばい): MRO売上の減、国内市場の新車需要増
- 商用車用機器：
 - ・上期 (前年同期比増収): 堅調な国内トラック需要による増収が海外市場での需要減をカバー
 - ・下期 (上期比横ばい)、通期 (前期比横ばい): 海外市場での需要減
- 船用機器：
 - ・(通年を通じて増収): 造船市況の回復
- 営業利益 (全体):
 - ・上期 (前年同期比増益)、通期 (前期比増益): 各事業による増収に伴う増益
 - ・下期 (上期比減益): 鉄道車両用機器および船用機器での成長投資によるコスト増により減益

*MRO=Maintenance, Repair and Overhaul

主要製品と顧客 (敬称略)

● 鉄道車両用機器 ブレーキシステム ドア開閉装置

JR各社、民鉄各社、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

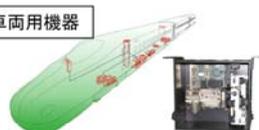
● 商用車用機器 エアブレーキ周辺機器

日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、いすゞ自動車、UDトラックス

● 船用機器 エンジン遠隔制御装置

川崎重工業、三井造船、三菱重工業、日立造船、ディーゼル ユナイテッド、Hyundai Heavy Industries (韓)、MAN Diesel (デンマーク)

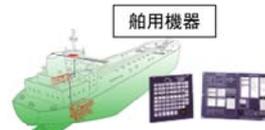
鉄道車両用機器



商用車用機器



船用機器



10

・鉄道車両用機器事業では、上期に比べ、下期は減収減益となっている。

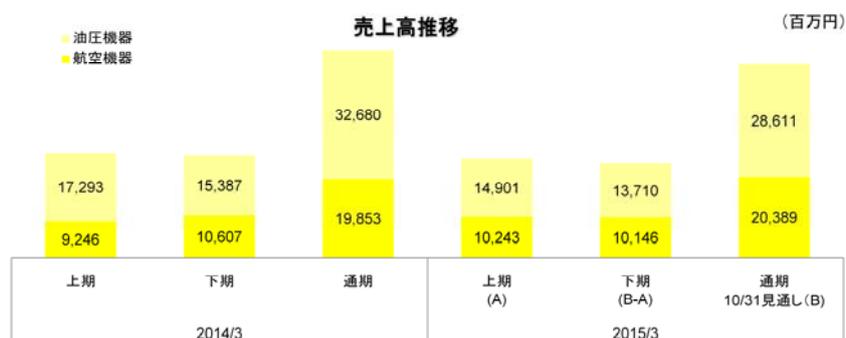
上期は生産増により操業度益が発生し、下期では操業度差異により営業利益にネガティブな影響を与える。

また、下期では中期的な生産増に向けた経費の増加、欧州での販管費の増加を見込んでいる。また、製品構成差によるマイナス影響も生じる見込み。

・船用機器事業は想定以上に回復している。

業績実績及び見通し

(単位:百万円)	2014/3 実績			2015/3				
	上期	下期	通期	上期		下期	通期	
				7/31 計画	実績 (A)	差引値 (B-A)	7/31 計画	10/31 見通し(B)
売上高 (前年同期比)	26,538 (+3.2%)	25,994 (+29.8%)	52,533 (+14.8%)	26,100 (-1.7%)	25,144 (-5.3%)	23,855 (-8.2%)	50,500 (-3.9%)	49,000 (-6.7%)
営業利益 (前年同期比)	1,840 (+9.0%)	2,022 (+1276.0%)	3,862 (+110.4%)	1,000 (-45.7%)	1,115 (-39.4%)	-15 (-100.8%)	1,700 (-56.0%)	1,100 (-71.5%)
営業利益率	6.9%	7.8%	7.4%	3.8%	4.4%	-0.1%	3.4%	2.2%



- ・前期比で唯一減収減益のセグメント。
- ・油圧機器事業では、中国建設機械市場の需要低迷により通期売上高が前期比40億円減収の見込み。
因みに、中国市場における建設機械販売台数はCY2012・CY2013では約11万台だった。今期は、期首計画ではCY2013比で微増を見込んでいたが、前年比20%減の9万台に市場前提を下方修正した。
- ・航空機器事業は、前期比で5億円増収の見込み。US1\$=100円を為替前提としているため、為替の状況によっては上振れの可能性がある。

航空・油圧機器事業

Nabtesco

Notes:

- 油圧機器: (通年を通じて減収): 中国における建設機械需要減の影響
- 航空機器: 上、通期 (前年同期比増収): 民間航空機向け売上の拡大、為替効果
下期 (上期比横ばい): 民間航空機向け・防衛省向け共に横ばい
- 営業利益 (全体): (通年を通じて減益): 油圧機器の減収に伴う減益幅の拡大

主要製品と顧客 (敬称略)

● 油圧機器

走行モーター:

日本: コマツ、コベルコ建機、クボタ、住友建機

中国: Sany, Xugong Excavator、Liu Gong、Zoomlion

● 航空機器 フライト・コントロール・アクチュエーション・システム

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社



12

・P5に記載の通り、今期は全社ベースの販管費等が増加する見込み。本社費用を人員数に応じて各事業セグメントに割り振るため、人員数が多い航空・油圧機器事業が受ける影響は相対的に大きい。結果として、セグメントの営業利益が押し下げられる要因となっている。

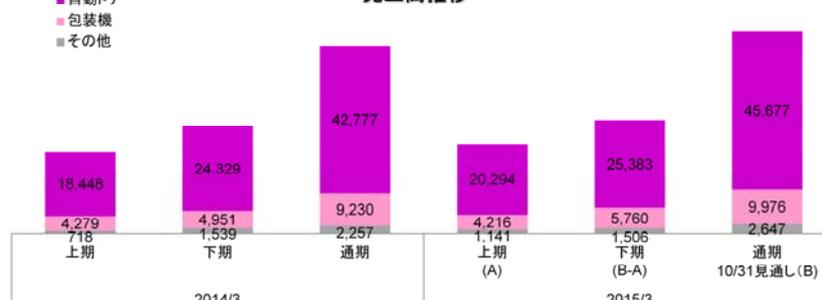
業績実績及び見通し

(単位:百万円)	2014/3 実績			2015/3				
	上期	下期	通期	上期		下期	通期	
				7/31 計画	実績 (A)		差引値 (B-A)	7/31 計画
売上高 (前年同期比)	23,445 (+6.2%)	30,819 (+19.1%)	54,264 (+13.2%)	25,900 (+10.5%)	25,651 (+9.4%)	32,648 (+5.9%)	58,300 (+7.4%)	58,300 (+7.4%)
営業利益 (前年同期比)	851 (-34.8%)	2,675 (+16.2%)	3,526 (-2.3%)	500 (-41.3%)	644 (-24.3%)	2,855 (+6.7%)	3,800 (+7.7%)	3,500 (-0.8%)
営業利益率	3.6%	8.7%	6.5%	1.9%	2.5%	8.7%	6.5%	6.0%

■自動ドア
■包装機
■その他

売上高推移

(百万円)



13

- ・前期比で増加する販管費等のセグメント配賦影響により、産業用セグメントの営業利益率は前期比で0.5ポイント低下する見込み。
- ・実質的には、自動ドア事業および包装機事業は前期比で増収増益の計画。

Notes:

- 自動ドア:
 - ・(通年を通じて増収): 主に為替効果による増収
 - ・下期(上期比増収): 季節性に伴う増収
- 包装機:
 - ・上期(前年同期比横ばい): 国内向けが微減となるも海外向けが微増
 - ・下期(上期比増収)、通期(前期比増収): 国内での需要増
- 営業利益(全体):
 - ・上期(前年同期比減益): IT投資による一時的なコスト発生により減益
 - ・下期(上期比増益): 自動ドア市場での季節性に伴う増収により増益
 - ・通期(前期比横ばい): 成長投資によるコスト増により横ばい

主要製品と顧客(敬称略)

● 自動ドア

各種建物用自動ドア: 大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関
 プラットフォームドア: フランス地下鉄、中国地下鉄、他

● 包装機(東洋自動機)

味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、
 北米飲料メーカー、中国食品メーカー

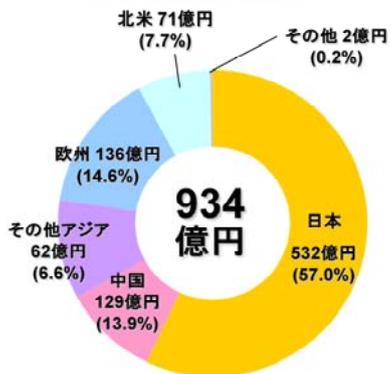


・自動ドア事業における主要海外子会社は現地通貨ベースでも前期比増収増益の見通し。

地域別売上高

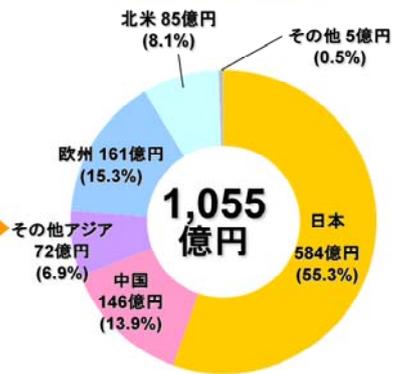
Nabtesco

2014/3上期実績



海外売上高比率
43.0%

2015/3上期実績



海外売上高比率
44.7%

Notes:

○ 鉄道車両用機器の中国向け、精密減速機の欧州向け及び航空機器の北米向け売上増加により海外売上高は471億円に増加。

・中国向けは、油圧機器事業の落ち込みを、鉄道車両用機器事業・精密減速機事業・船用機器事業の増収が補った。

B/S概況

Nabtesco

(単位:百万円)	2014/3/31	2014/9/30	差異
資 産	233,984	228,104	-5,879
(現 預 金 等)	53,725	42,251	-11,474
(売 上 債 権)	52,840	53,083	243
売上債権回転日数	88日	92日	4日
(棚 卸 資 産)	22,233	25,673	3,439
棚卸資産回転日数	53日	58日	5日
(有 形 固 定 資 産)	55,225	54,708	-517
負 債	94,513	83,252	-11,260
(有 利 子 負 債)	26,204	15,544	-10,660
純 資 産	139,471	144,852	5,380
(新 株 予 約 権)	306	323	16
(少 数 株 主 持 分)	8,121	7,310	-811
自 己 資 本	131,043	137,218	6,175

※ 自己資本比率: 56.0% 60.2%

Remark:

○ 手元運用資金の圧縮
-109億円

Remark:

○ 商品及び製品+1億円
○ 仕掛品 +22億円
○ 原材料及び貯蔵品
+9億円

Remark:

○ シンジケートローン
の返済 -100億円

Remark:

○ 利益剰余金の増
+70億円

16

・棚卸資産回転率が悪化しているが、9月末時点と3月末時点で同回転率を比較すると、9月末時点で悪化する傾向がある。今期末では改善を見込んでいる。

設備投資額・研究開発費・減価償却費

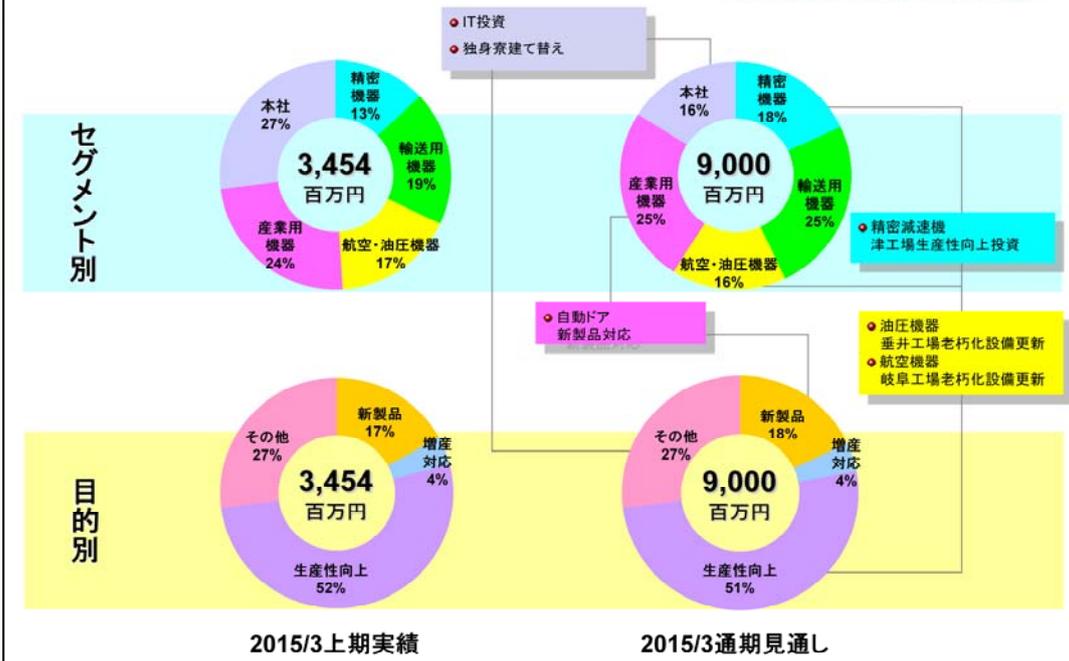


(単位:百万円)	上期実績		通期実績及び見通し		
	2014/3上期 実績	2015/3上期 実績	2014/3通期 実績	2015/3通期 期初予想	2015/3通期 見通し
設備投資額	3,557	3,454	6,760	12,000	9,000
研究開発費	3,111	3,392	6,401	7,000	7,600
減価償却費	3,640	2,941	7,600	6,700	6,400

17

- 今期の設備投資額を期首計画の120億円から90億円に見直した。油圧機器事業における投資の抑制が主因。
- 期首計画比で研究開発費は増加する見込み。売上高研究開発費比率は約3.5%。

設備投資額内訳



連結キャッシュ・フロー



■ 営業キャッシュ・フロー
 ■ 投資キャッシュ・フロー
 —■— フリーキャッシュ・フロー



トピックス

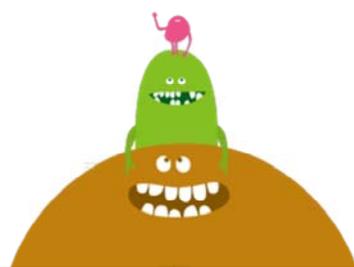
Nabtesco

- 4月:精密減速機『RV (TM)』シリーズ生産累計500万台達成
- 6月:インド駐在員事務所開設
インドでの情報収集、調達先の探索等。
- 7月:「マリタイムイノベーションジャパン」の研究開発ネットワークへの参加
船用機器事業に関連する研究開発を推進。
- 9月:社会的責任投資の国際指標DJSI Asia Pacific Indexに再選定
2013年9月の初選定に続き、組入れが継続。

- 9月:船舶用『電子ガバナー装置』納入累計7000台を達成
今後は船用電子制御エンジン向け製品ラインアップを拡充。
- 10月:当社『パニックフリードア』が「第8回キッズデザイン賞」を受賞
自動ドア事業にて4年連続の受賞。

- 10月:格付投資情報センター(R&I)の発行体格付け A(シングルA)取得

うごかす、とめる。
Nabtesco



Appendix

セグメント別業績概況・見通し



中期経営計画：計数計画

Nabtesco

2017年3月期までにEPS190円をめざす。

	2014年3月期 実績	2015年3月期 10/31見直し	2017年3月期 中期計画 2014年5月策定	2021年3月期 長期ビジョン 2012年5月策定
売上高	2,022億円	2,160億円	2,800億円±5%	4,000億円
営業利益	200億円	216億円	340億円	600億円
営業利益率	9.9%	10.0%	12.0%	15.0%
当期利益	149億円	155億円	240億円	-
ROA	6.9%	6.7%	7.5%	11.0%
ROE	12.2%	11.7%	15.0%	18.0%
配当性向	32.2%	32.7%	30%以上	

2015/3～2017/3の中期経営目標

①さらなる事業規模拡大・収益性の追求

②資産・資本効率を意識した経営の推進

③成長性を考慮した企業収益の配分